

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 9 月 20 日 (2007.9.20)

【公開番号】特開 2000-199332 (P2000-199332A)

【公開日】平成 12 年 7 月 18 日 (2000.7.18)

【出願番号】特願 平 11-313011

【国際特許分類】

E 0 4 F 15/18 (2006.01)

E 0 4 F 15/04 (2006.01)

F 2 4 D 3/16 (2006.01)

F 2 4 D 13/02 (2006.01)

F 2 4 D 19/02 (2006.01)

【F I】

E 0 4 F 15/18 Y

E 0 4 F 15/18 X

E 0 4 F 15/04 6 0 1 Z

F 2 4 D 3/16 J

F 2 4 D 13/02 F

F 2 4 D 19/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 3 日 (2007.8.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

発熱パネル(2)の木質基材(7)には、下面から所定の溝(9)が形成せられて温水パイプ(10)が収められ、軟質シート層(8)により下側から塞がれている。木質床材(3)の基材(11)は木材であり、木質基材(11)の上面には化粧単板(12)が、同下面には裏打ち木質単板(13)がそれぞれ接合されている。発熱パネル(2)の上面の金属層(4)および木質床材(3)の下面の金属層(5)は、ともにアルミニウム箔であり、前者は発熱パネル(2)の木質基材(7)に、後者は木質床材(3)の裏打ち木質単板(13)にそれぞれ接合されている。軟質シート(8)としては、ゴムアスファルトに鉄粉末を混入したものが用いられており、発熱パネル(2)に置敷き可能な重量を付与しうる比重を有するものであり、この比重は木質基材(7)の反りがある場合、これをも矯正しうるものである。隣接する発熱パネル(2)の端面どうしは本実接合(15)され、隣接する木質床材(3)どうしは相じゃくり接合(14)されている。